

住民活動①

子ども会が 交流キャンプ

大分 日出町・豊岡子ども会 玖珠町・森子ども会





大分県日出町の豊岡子ども会と同県玖珠町の森子ども会が交流する「豊岡・森子ども会交歓キャンプ」が八月一日、二日の一泊二日の日程で、日出町豊岡地区公民館を主会場に行われた。森子ども会からは子ども三四人、豊岡子ども会からは子ども五六人が参加した。

この交歓キャンプは、夏休みに一年交代で相互訪問する方法で続いており、今年は二五回目。初回に参加した子どもは今年三六歳と、今は親の世代になっている。

昨年は、豊岡子ども会が森地区を訪ねて、史跡めぐりやナイターオリンピックなどで交流した。今年には森子ども会が豊岡地区を訪ねる番だ。

森地区の子どもたちは朝八時三〇分に森地区公民館に集合し、貸し切りバスを仕立てて午前九時に出発。天気予報は雨だが、どうにか持ちそうな空模様だ。バスは大分自動車道を快適に一路、日出町に向かった。

バスは豊岡地区の子どもたちと交歓キャンプ実行委員会のみなさんに出迎えられて、豊岡地区公民館には一〇時前に着いた。早速、歓迎会が開かれ、今回は二五回という記念行事とあって日出町長の本田維憲さんと玖珠町長の小林公明さん

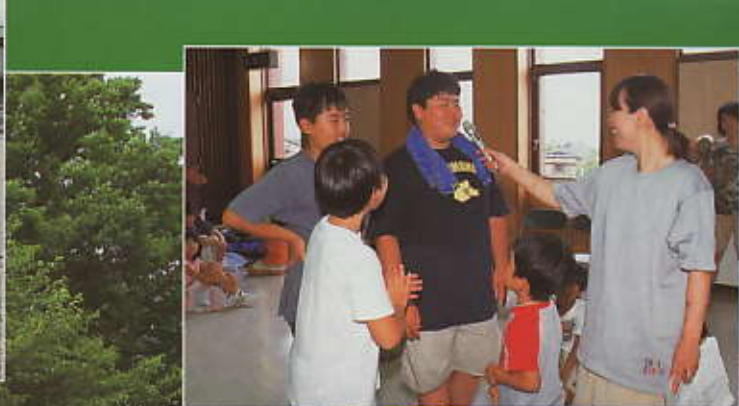


も駆け付け、あいさつに立った。
 歓迎会のあと、両地区の子どもたちは九班に分かれ、それぞれ班長を決め、班の旗づくりに取りかかる。旗には魚や動物、船、花火などの絵が思い思いに描かれていく。
 昼食のあと、早速この旗を掲げて豊岡の浜に移動。天気も晴れた。今回のメイン・イベント地引き網が待っている。

大漁を期して、例年お盆過ぎの土曜、日曜に行ってきたものを大潮のこの日に繰り上げたのだが、関係者の期待に反して獲物が少ない。半月違うだけで海の中も違っていた。藻が生えており、藻と網の隙間を突いて目当ての子ヌが逃げたという。それでも、網の中にはメバル、うなぎ、キス、セイゴ、コハダ、カニなどが入っている。

地引き網の合間をぬって海水浴を楽しんだ子どもたちが陸に上がると、豊岡漁港の一角にドラム缶の風呂と、ビニールシートを張って作った簡易の水風呂が用意されている。水風呂は朝から水を張っておいたから冷たくはない。子どもたちは小さな子どもから順に海水を流した。

夕食は漁港の空き地でのバーベキュー大会。そのために捕れた魚を本職の料理人が慣れた手つきでさばっていく。肉や



焼きそばと一緒に、刺身や焼き魚で食べた。夜はジュニアリーダーによるゲームで交流した。

翌二日目は雨天のため、予定していた歴史の道散策と、グラウンドやプールでのゲームは中止して、工作教室と体育館でバレーボールを行うことになった。工作教室では素焼きの皿への絵付けに挑み、バレーボールはリーグ戦で汗し、二班が優勝した。

昼食後、お別れ会を開き、再会を約して、森子ども会は豊岡子ども会に見送られて帰路についた。

相互交流が始まったのは、江戸時代の豊岡地区が玖珠森藩の飛び地(領地)で、豊岡港が森藩の産物の積み出し港だったことから。昔は同じ藩の子どもだったということから毎年、交流するようになった。

交歓キャンプOBの山口豊さんは二五年間も続いている理由を「子ども会の父母が熱心だから」と話す。

今年も、森地区からは父母一七人が参加した。豊岡地区は、食事の準備などボランティア約一〇〇人が参加して迎え入れた。

■連絡先 日出町豊岡地区公民館

TEL 〇九七七—七二—八〇〇